

<発表者> 指導区名：熊毛指導区 氏名：福永寛之**1 発表テーマ**

熊毛地域における人材育成対策及び種子島森林組合の経営改善対策について

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

熊毛地域は、種子島、屋久島、口永良部島、馬毛島の4島からなっており、林野率は種子島が53.3%、屋久島が89.5%である。スギ主体の人工林の齢級構成を見ると、4～9齢級の間伐対象林分が35%、木材生産が可能となる10齢級以上の林分が65%であることから、森林の多面的機能の発揮はもとより、主伐を含めた木材生産機能の発揮が求められる。

一方、林業就業者数は、屋久島は若干上昇傾向、種子島は減少傾向にあり、求人をかけてもほとんど応募がないのが現状である。

このようなことから、熊毛地域においては、森林の各種機能の持続的発揮のために事業者が必要とする人材の育成・確保が急務であるとともに、就職希望者に対する魅力ある職場として、島内唯一の森林組合である種子島森林組合の経営改善を推進していくことが求められている。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題**(1) 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）****① 人材育成対策****・ 就業ガイダンス**

種子島高校では施行中の間伐現場で高性能林業機械による伐出作業の実演やチェーンソーの丸太切り体験などを行い、森林及び林業という職業に対する理解を深めた。

・ 低コスト施業研修

管内の林業事業者を対象とした研修では、屋久島で効率的な施業を行っている事業者を講師として招き、事業者の現場において路網配置や施業実施状況、高性能林業機械の効率的な運用、低コストとなる施業について検討・協議した。

② 種子島森林組合の経営改善対策

種子島森林組合は多額の累積赤字を計上しており、早急な経営改善が必要である。

当組合の主たる事業は、2つのチップ工場の加工部門と森林整備部門であり、工場の稼働状況と工員・事務員の配置、森林作業道などの作業路網配置や作業システムの改善など、個別の課題解決に取り組んでいる。

しかしながら、チップ工場への針葉樹原木は当組合の森林整備部門からの入荷の増減、広葉樹は島内の素材生産業者4者からの入荷の増減に影響される状況にある。

③ 原木の有利販売への取組

屋久島で成果を上げている原木の島外移送の取組について、種子島においても実施し、収益の向上を図ることとした。この取組では「材の規格ごとに船へ満載した移送」が条件となり、種子島の各事業者が協力し、中間土場での原木の集積、検収・仕分けを行う必要があることから、当該取組を定着させるため「優良材の島外移送促進事業(令和3～5年度地域振興推進事業)」により支援することとした。

(2) 課題

① 人材育成対策

高校生に森林・林業に興味を持ってもらう、より効果的な授業内容の検討

② 種子島森林組合の経営改善対策

- ・ 森林整備部門の収支構造の改善
- ・ 2つのチップ工場の原木入荷量・チップ生産量と収益の関係や損益分岐点の分析
- ・ 以上を踏まえた森林整備事業体制やチップ事業体制の検討

③ 原木の有利販売への取組

中間土場を活用した原木の島外移送の定着や原木を調達する施業地の安定的確保

4 今後取組むべき内容

(1) 具体的手法又は検討方向

① 人材育成対策・有利販売への取組

継続的に取り組む予定。

② 種子島森林組合の経営改善対策

経営シミュレーションから、森林整備実績や原木の入荷状況に応じて、2つのチップ工場を稼働させるなど、状況に応じて収益を最大に(赤字を最小に)なるよう経営方針を変更すべきと考えられ、そのための経営指標を策定する予定。

(2) 理由

森林・林業に関心を持ってもらうことで、就職先として「林業」を意識してもらうことのきっかけとなる。また、安定的な経営を行うことが就職の決定根拠の一つとなり、魅力ある就職先となると考えられることから、人材育成と早期の経営改善を同時に行う必要があるため。

(3) 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

経営改善で早期に安定した経営を確立し、一人でも多くの就業者を林業事業体に迎え入れ、熊毛地域の森林・林業が活気あるものとなることが期待される。